

VALUE CONFERENCE 2026

発表者 オリエンテーション

価値を届ける発表を設計する

Value Conference Committee・Chair

芝本秀徳

2026年9月15日



01 カンファレンスで発表すること

02 発表を設計する

03 本番までの準備

01

カンファレンスで 発表すること

参加者にとっての「価値」を届ける

VE 全国大会が培ってきた実践の蓄積を受け継ぎながら、
その役割と貢献をさらに広げていく

全国大会		Value Conference
国内を中心とした活動共有	→	国内外へ価値を発信する場
活動や成果の紹介	→	知見や学びの共有
VE コミュニティが中心	→	多様な専門家・実務家が集う
実践を伝える	→	洞察と知識を共有する

知識を残す 発表設計のプロセスで、他者に伝わる知識になる

専門性を伝える その分野における専門性を持っていることの証明

認知を得る 所属組織の経験と知見を社会に残す

組織や業界の外に向けて発信することによって社会に認識される

VALUE CONFERENCEが大切にしたいもの

実践の蓄積を、
領域を超えて活かせる
洞察・知識として共有する。

経験から得た判断や論理を言葉にして、
他者が活かせる知識として提供する。

段階	内容	問い
経験	取り組みと結果	何をしたか、何が起きたか
洞察	判断や成果の背景	なぜ、そうなったか
知識	他者が活かせる「考え方」	何を見直し、どう判断するか

ウチだと、どうだろうか？
何を見直せばいいだろうか？

参加者の「考えるきっかけ」「問題解決のヒント」を提供する

02

発表を設計する

発表の品質は設計を超えない

限られた時間で、異なる文脈を持つ参加者に、
理解できる言葉と構成へ翻訳する

論文・事例		発表
自分のペースで読める	時間	限られている
成果の正確・体系的な記録	主な目的	知見の理解と、参加者への示唆
体系的	構成	ポイントを押さえたストーリー構成
ある程度共有している	前提	共有していない

仕事の背景 何を扱い、誰に、どのような価値を届ける仕事か

課題の重要性 何が困りごとで、なぜ解決が必要だったか

用語と制約 社内用語・業界慣行・判断の前提は何か

自分たちにとっての当たり前は、参加者にとっての当たり前ではない。
専門外の参加者にも、課題と判断の意味が伝わることを目指します。

正式題目 研究・実践の対象と内容を正確に示す

セッションタイトル この発表から何を得られるかを伝える

「参加者にとってどんな価値があるか」をひと言で伝える
興味を持ってもらえないと聞きに来てもらえない。

発表の価値を、 参加者の視点から一緒に考える提案

発表を参加者にとっての「価値」から設計する

どちらの型でも、参加者に届けるのは「仕事につながる示唆」

課題発見型		学び共有型
新しい視点を届ける	目的	実践から学びを届ける
問題提起	入り口	取り組んだ課題
新しい視点と根拠	展開	取り組みと結果
提言・示唆	結び	学び・他者への示唆

発表全体を貫く一文

私はこの発表を通じて、
参加者に〇〇を持ち帰ってほしい。

事例・データ、発表のすべてがこの一文に収斂するように設計する

20 分
発表

5 分
質疑応答

5 分
入れ替え

時間は厳守してください。
質問の意図を確認し、結論から簡潔にお答えください。

発表は「残る」前提で組み立てる。

利用場面	事前に確認いただきたいこと
会場投影	発表内容・掲載情報を公開できる範囲
資料配布	配布の有無と、配布できる資料の範囲
オンデマンド	発表映像は編集なしでオンデマンドで配信

第三者の素材、自社・取引先情報、必要な承認を確認してください。

03

本番までの準備

通し練習で、伝わり方を確かめる

設計・作成 中核メッセージを軸に、内容と資料を整える

通し練習 時間を測り、第三者の反応を確かめる

確認・提出 公開範囲と必要な承認を確認して提出する

通し練習は必ずやりましょう。
できれば、人に聞いてもらいましょう。

この発表で、
いちばん伝わったことは何ですか？

返ってきた言葉は、
届けたいメッセージと一致しているか

資料（発表PPT、配布PDF）提出期限

10月13日（火）

提出先：conf@sjve.org

Q & A

質疑応答

発表者の皆さまへ

みなさんの発表が、
発表者・参加者の双方にとって
価値あるものになることを願っています。